

ヨーロッパの装い

19-20世紀を中心に

化粧文化ギャラリー

開室日／毎週木曜日・金曜日

開室時間／11:00～17:00（最終入室16:30）

・木曜日は予約制、金曜日は予約不要のフリー開室

・2025年8月14日（木）、15日（金）は休室



2025
4.3 [THU]

9.26 [FRI]

ヨーロッパの装い 19-20 世紀を中心に

産業革命の技術革新を経たヨーロッパ社会は近代化へと進む中、ビューティーの分野でも現在私たちが行っている化粧へと直接つながる化粧品やテクニックが登場し、その影響は日本の化粧文化にも及びました。

今期「ヨーロッパの装い」では、ポーラ文化研究所のコレクションの中から、化粧道具や装身具など 19 世紀から 20 世紀のヨーロッパの装身に関する所蔵品をご紹介します。鎖国を解いた日本の人々も憧れた優美な化粧やファッションに思いをはせていただければ幸いです。

〈Books〉では、「影響」をキーワードに連想を広げます。水に投じた一石から広がるさざ波は、幾重にも広がったりはるか遠くまで届いたり。さまざまなことからの響き合いを感じてください。

Art 展示資料

化粧部屋心得

19 世紀から 20 世紀初めにかけて、あまり目立たないように行われていた化粧は次第に容認されるようになり、現代へと続く新しい化粧品や化粧法が生み出されていきました。また、化粧をするための環境づくりも重要視されるようになりました。

コスメを楽しむ

化学工業の発達化粧品の世界にも大きな変革をもたらしました。素材や合成の技術が飛躍的に発達し、容器も生産技術の発達で比較的安価に量産可能となって、一部の特権階級のものであった化粧品の使用が、次第に一般市民へと普及していきます。

よそおいのスパイス

扇をあらわす英語のファン「FAN」は、名詞だと「うちわ」「扇」「扇風機」「送風機」、動詞では「風を送る」「あおぐ」「そよかぜなどが～をなでる」など、やさしく風を送るイメージで、いかにも優雅な印象です。欧米の扇はファッションの重要な要素で、絵画作品を丹念に見ていくと「扇を持っている」姿の多いことに気づかされます。

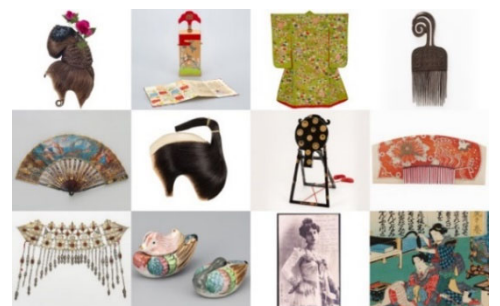
ポーラ文化研究所ウェブサイト「デジタルミュージアム」のご案内

これまでに企画開催してきた展覧会をデジタルで再構築しました。

1 クリックから美しさの世界との出会いが始まります。

ぜひアクセスしてみてください。

「デジタルミュージアム」TOP はこちら▷



資料名	メーカー／デザイナー	年代	
ガラス化粧セット	サン・ルイ	1900年頃	
エナメル装飾化粧セット	リード・アンド・バートン	1900年頃	
花模様香水瓶、パウダーボックス		19世紀	
ナルシス・ロワ		1900年頃	
サンタリア・エッセンス	ロジェ・ガレ	1900年頃	
アストリス	L.T.ピヴェール	20世紀	
ショッキング	スキヤパレリ／レオノール・フィニ	1937年	
サクセス・フー	スキヤパレリ	1952年	
ダン・ラ・ニューイ	ウォルト／ルネ・ラリック	原型制作：1924年	
チューブ・フルール	フォルヴィル／ルネ・ラリック	原型制作：1924年4月25日	
ヴェル・トワ	ウォルト／ルネ・ラリック	原型制作：1933年	
シプレ	ドルセー／ルネ・ラリック	原型制作 1927年	
ドルセーの花	ドルセー／ルネ・ラリック	原型制作：1925年頃	
トリプルコンパクト	ラングロワ	1920-1930年代	
クラウン・ジュエル	プリンス・マチャベリ	20世紀	
オルゴール付きコンパクト	キグ	1910-1950年代頃	
アラベスク文様トリプルコンパクト		1930年代	
パフ付き花模様コンパクト		1920-1950年代頃	
幾何学模様コンパクト	ブラヴェテ	1930年代頃	
イミテーションストーン装飾コンパクト		1920-1950年代頃	
バッグ型イミテーションストーン装飾コンパクト		1920-1950年代頃	
八角形リップ付きコンパクト		1920-1950年代	
植物文様コンパクト	エルギン・アメリカン	1946年代	
女性像入りトリプルコンパクト	モンバイン	1920-1940年代	
コンパクト	ポンピアン	1910年代頃	
ライター型トリプルコンパクト		1910-1950年代頃	
マルタンのワニス扇		1860年頃	○
貝の扇 愛を告白する男女		1770年頃	◇
パリスの審判		1730年頃	☆
結婚式・婚礼用の扇 天蓋、盾文様		1780-1790年	○
中国の扇 モノグラム入り		1770-1780年	◇
中国正月風景		1790年頃	☆

会期中、扇の展示替えを行います：○1期 4/3-5/30, ◇2期：6/5-8/1, ☆3期：8/8-9/26

Books 書籍リスト

* 書誌末尾は日本十進分類法（NDC）です。リストは各テーマ、NDC 排列順になっています。

コミュニティ

地域という生活に根ざした人びとの集団には、長年受け継がれてきた哲学や美意識があるようです。

時には新しい風を受け入れ、緩やかに時をつないでいきます。

PICK UP 『日本ガラス鏡工業百年史』先田与助著. 日本ガラス鏡工業百年史編纂会, 1971年 [573.57]

古代から近世まで、日本の鏡の素材は金属が主流でした。ガラス鏡の普及は、明治の中頃と考えられています。本書は大阪で鏡の卸商を営む著者が大阪のガラス鏡業界について、業界紙に発表した記事に、他の地域で生産されるガラス鏡の状況などを大幅に加筆して刊行されました。ガラス鏡の元となる、板ガラスの発展にも触れ、化粧にも関わりが深い鏡台について多くのページを割いています。

『夢を容れる：釜屋化学工業 80 年史』松尾博志著. 釜屋化学工業, 1986 年 [570.67]

『香料とともに六十年』曾田政治著. 曾田香料, 1967 年 [576.6]

『高砂香料 50 年史』高砂香料 50 年史編集委員会編. 高砂香料工業；トッパン・アイデアセンター（制作）, 1973 年 [576.6]

『長谷川香料八十年史』長谷川香料, 1985 年 [576.6]

『井田両国堂四十年史』井田両国堂四十年史編纂委員会編. 井田両国堂, 1960 年 [576.7]

『よし町よしや』知切光歳著. 「よし町よしや」刊行会；実業之日本事業出版部（製作）, 1971 年 [576.7]

『東京装粧品協同組合史』組合史編纂委員会編. 東京装粧品協同組合, 1984 年 [576.7]

『大阪小間物装粧品変遷史』[大阪装粧品協同組合編]. 日本商業新聞社, 1960 年 [589.2]

『Steps：日本製靴の歩み・1902～1989 日本製靴株式会社社史』日本製靴株式会社社史編纂委員会編. 日本製靴, 1990 年 [589.25]

『瀧川五十年史：美しい髪のために』瀧川株式会社編. 瀧川, 1982 年 [595]

『学校法人国際共立学園国際理容美容専門学校五十年誌』国際理容美容専門学校, 2005 年 [595.077]

『パルタック八十年史：流通一筋に生きる』パルタック, 1978 年 [673.5]

『大山 70 周年史』大山社史編纂委員会編纂. 大山, 1991 年 [673.5]

Act

TPO に合わせて、自分らしさの表現として。

人は人生という舞台の上で身じまいからふるまいまで、常に何かを演じ続けているようです。

PICK UP 『日本映画人名事典：女優篇』上下, キネマ旬報社編. キネマ旬報社, 1995 年 [778.21]

本書は、1980 年刊行の『日本映画俳優全集：女優編』の増補改訂版として刊行されました。昭和 55 年版を若干の加除など再編集し、昭和 55 年以後にデビューした女優 659 名を加えた、2035 人を収録しています。この人数には 1899 年から 1995 年まで、原則的には主役・助演・脇役問わず、一本でも映画に出演したことのある女優、例外的に歌手やタレントも含まれており、ほぼ全員の女優の顔写真を掲載したことは、特筆に値します。

『日本神話のコスモロジー：常世の潮騒を聴く』北沢方邦著. 平凡社, 1991 年 [164.1]

『顔・身体をもつ道具たち (REKIHAKU)』国立歴史民俗博物館[ほか]編. 国立歴史民俗博物館, 2024 年 [205]

『大江戸の姫さま：ペットからお興入れまで (角川選書)』関口すみ子著. 角川学芸出版；角川書店（発売）, 2005 年 [210.5]

『Dentsu 広告景気年表：ビジュアル版：1945-2003』電通消費者研究センター編. 電通, 2004 年 [210.76]

『髪をもたない女性たちの生活世界：その「生きづらさ」と「対処戦略」』吉村さやか著. 生活書院, 2023年 [361.4]

『明治のお嬢さま (角川選書)』黒岩比佐子著. 角川学芸出版; 角川グループパブリッシング (発売), 2008年 [367.21]

『博士の肖像：人はなぜ肖像を残すのか』木下直之編. 東京大学総合研究博物館; 東京大学出版会 (発売), 1998年 [377.28]

『美貌の文化史：神と偶像 (中公文庫)』矢田部英正著. 中央公論新社, 2013年 [382.1]

Marie Claire : 50ans de la vie des femmes : 1954-2004. Editions Marie Claire, 2004. [383.1]

『女性の百科』日本アートセンター編. 集英社, 1974年 [590]

『奇想のモード = MODE SURREAL：装うことへの狂気、またはシュルレアリスム』神保京子監修・執筆. 青幻舎, 2022年 [589.2]

『見立て (日本の美学)』日本の美学編集委員会編. ペリかん社, 1996年 [701.1]

『和漢のコードと自然表象：十六、七世紀の日本を中心に (アジア遊学 ; 246)』勉誠出版, 2020年 [702.146]

『「美しい顔」とはどんな顔か：自然物から人工物まで、美しい形を科学する (DOJIN 選書)』牟田淳著. 化学同人, 2013年 [704]

『マダム貞奴：世界に舞った芸者』レスリー・ダウナー著, 木村英明訳. 集英社, 2007年 [772.1]

Toshiro Morita. *Kumadori.* JICC, 1985 [774.69]

『川上音二郎・貞奴展：音二郎没後100年・貞奴生誕140年記念』竹内早奈恵, 西内裕詞編. 茅ヶ崎市美術館, 2011年 [775.1]

『ファミ・ビューティー：女優たち美の追求』Banana Boat Crew[編]. 二見書房, 2007年 [778.28]

『〈総特集〉イケメン・スタディーズ (ユリイカ 2014年9月臨時増刊号)』青土社. 2014年 [901.1]

対面

正面から相対する姿勢には、真摯な覚悟を感じさせます。

澄んだ真っ直ぐな視線には、何者にも代えがたい強さがあります。

PICK UP

『触楽入門：はじめて世界に触れるときのように』テクタイル [ほか] 著. 朝日出版社, 2016年 [141.24]

著者のテクタイルは神経科学や心理学、情報通信、アートといった、多方向から触感にアプローチする研究者、表現者のグループです。情報化社会の中で希薄になる触感に、改めて目を向け、触れることの面白さを語ります。終章で著者は、触感を伴った体験で得るエモーショナルな実感について語っています。コロナ禍で改めて対面や接触を強く意識するようになった今、実体験としての触覚について改めて考えさせてくれる1冊です。

『現実を解きほぐすための哲学』小手川正二郎著. トランスビュー, 2020年 [104]

『人は皮膚から癒される (草思社文庫)』山口創著. 草思社, 2022年 [141.24]

『顔ノート：prosopometrie』山崎清著. 太陽書林; みずうみ書房 (発売), 1979年 [148.1]

『大江戸異人往来 (丸善ブックス)』タイモン・スクリーチ著, 高山宏訳. 丸善, 1995年 [210.5]

『大君の都：幕末日本滞在記 上中下 (岩波文庫)』オールコック著, 山口光朔訳. 岩波書店, 1962年 [210.58]

『ある英国外交官の明治維新：ミットフォードの回想』ヒュー・コータツツイ著, 中須賀哲朗訳. 中央公論社, 1986年 [210.59]

『浅草十二階：塔の眺めと〈近代〉のまなざし』細馬宏通著. 青土社, 2001年 [210.6]

『戦争中の暮しの記録』暮しの手帖編. 暮しの手帖社, 1972年 [217.5]

『パリの皇族モダニズム：領収書が明かす生活と経済感覚』青木淳子著. KADOKAWA, 2014年 [288.44]

『物価の文化史事典：明治/大正/昭和/平成』森永卓郎監修, 甲賀忠一, 制作部委員会編. 展望社, 2008年 [337.821]

『人は見た目!? ルッキズムの呪いをとく! 1,2,3』矢吹康夫監修. フレーベル館, 2004-2025年 [361.4]

『トランスナショナル・ジャパン：アジアをつなぐポピュラー文化』岩淵功一著. 岩波書店, 2001年 [361.5]

『武家の女性 (岩波文庫)』山川菊栄著. 岩波書店, 1983年 [367.21]

『日本の折形：贈る心を形にかえて』山根章弘著. 講談社, 1987年 [385.97]

『つつみのことわり：伊勢貞丈『包之記』の研究』山口信博著. 折形デザイン研究所, 2013年 [385.97]

『異文化へのまなざし：大英博物館と国立民族学博物館のコレクションから』吉田憲司[ほか]編. NHK サービスセンター, 1997年 [389]

『体にいい食べ物はなぜコロコロと変わるのか (ベスト新書)』畑中三応子著. ベストセラーズ, 2014年 [498.583]

『いま、バリアとはなにか』せんだいメディアテーク企画・編集. せんだいメディアテーク, 2011年 [702.16]

『現代絵画の社会学と美学：時代の画像』アーノルト・ゲーレン著. 池井望訳. 世界思想社, 2004年 [723.08]

『「現代写真」の系譜：写真家たちの肉声から辿る (光文社新書)』圓井義典著. 光文社, 2022年 [740.2]

『日本人ノ顔』荒木経惟写真；荒木経惟「日本人ノ顔」プロジェクト編. 紀伊國屋書店, 2002年 [748]

行程

ゴールに向けて出発する。その途中には、ヒト、モノ、コトとのさまざまな出会いがあるでしょう。
その行程を楽しむのも、苦しくするのもあなた次第。あなたはどんな旅をしますか。

PICK UP 『"きよのさん"と歩く江戸六百里』金森敦子著. バジリコ, 2006年 [384.37]

江戸時代、封建制度の中で女性は土地に縛られ耐える存在で、移動のイメージはないかもしれません。しかし様々な理由で旅をする女性は存在し、紀行文が残されています。本書は羽州鶴岡の豪商の内儀・三井清野による、180日にも及ぶまさに豪遊の記録です。買物を楽しんだりグルメに舌鼓を打ったり、吉原見物などエンタメも欠かしません。もちろん、このような旅はごく一部の人に限られていましたが、社会の様子を生き生きと伝えてくれます。

『製本工房から』柝折久美子著. 冬樹社, 1978年 [022.5]

『歴史をつなぐ (REKIHAKU)』国立歴史民俗博物館[ほか]編. 国立歴史民俗博物館, 2023年 [205]

『グランド・ツアー：良き時代の良き旅 (中公新書)』本城靖久著. 中央公論社, 1983年 [293.09]

『奈良・平安期の日中文化交流：ブックロードの視点から』王勇, 久保木秀夫編. 農山漁村文化協会, 2001年 [210.35]

『「絵巻」子どもの登場：中世社会の子ども像 (歴史博物館シリーズ)』黒田日出男著. 河出書房新社, 1989年 [210.4]

『江戸の舶来風俗誌 (江戸風俗資料)』小野武雄編著. 展望社, 1975年 [210.5]

『江戸武士の日常生活：素顔・行動・精神 (講談社選書メチエ)』柴田純著. 講談社, 2000年 [210.5]

『F.ベアト幕末日本写真集』横浜開港資料館, 横浜開港資料普及協会編. 横浜開港資料館, 1987年 [210.58]

『秋田美人の謎』新野直吉著. 白水社, 1984年 [212.4]

『京阪神モダン生活』橋爪紳也著. 創元社, 2007年 [216]

『古代ローマ人の24時間：よみがえる帝都ローマの民衆生活』アルベルト・アンジェラ著. 関口英子訳. 河出書房新社, 2010年 [232]

『古代エジプト人の24時間：よみがえる3500年前の暮らし』ドナルド・P・ライアン著；大城道則日本語版監修；市川恵里訳. 河出書房新社, 2020年 [242.03]

『日本生活変遷史：衣食住』日本風俗史研究会編著. 内外タイムス社, 1960年 [382.1]

『日本女性のライフコース：平成・令和期の「変化」と「不変」』樋口美雄[ほか]編. 慶應義塾大学出版会, 2023年 [367.21]

『帯の変遷史』吉川観方著. いづくら織物, 1963年 [383.1]

『携帯の形態：旅するかたち (Inax booklet)』INAX ギャラリー名古屋企画委員会企画；柏木博[ほか]執筆. INAX, 1993年 [384.37]

『江戸時代の名産品と商標』江戸遺跡研究会編. 吉川弘文館, 2011年 [602.1]

『美しき日本：大正昭和の旅展』東京都江戸東京博物館編. 東京都江戸東京博物館, 2005年 [689.21]

『絵すごろく：生いたちと魅力』山本正勝著 (翔奉庵主人). 芸艸堂, 2004年 [721.8]

人工

毎日の生活の中では、人造物はできれば避けたいと考える、天然信仰が根強いようです。

人間の手が作り出してきたものへの美しさや価値をもう一度見直してみませんか。

PICK UP

『魅せられてプラスチック：文化とデザイン』竹原あき子著. 光人社, 1994年 [578.4]

20世紀初頭に発明され、日本では第二次世界大戦後に新素材として普及したプラスチック。1990年代に入ると、利便性と環境負荷という明暗双方の観点から語られるようになりました。本書は工業デザイナーであり長く大学で教鞭をとった著者による、プラスチックの文化史です。映画や家電など身近な事柄を糸口に、プラスチックの歴史を紐解きます。巻末には技術、デザイン、プラスチックに関する主要参考文献リストを収録しています。

『あたらしい近代服飾史の教科書：衣服の標本で見る、着るものの歴史と文化』長谷川彰良著. 翔泳社, 2025年 [383.1]

『燈用植物（ものと人間の文化史）』深津正著. 法政大学出版局, 1983年 [470.4]

『計測の科学：人類が生み出した福音と災厄』ジェームズ・ヴィンセント [ほか]著. 築地書館, 2024年 [501.22]

『ものづくり日本の源流：近代国家をつくりあげた機械職人たちの系譜をたどる』酒井陽太著. 方丈社, 2016年 [509.21]

『大量生産の社会史』オットー・マイヤー, ロバート・C.ポスト編, 小林達也訳. 東洋経済新報社, 1984年 [509.253]

『文明開化と明治の住まい 上（暮らしとインテリアの近代史）』中村圭介著. 理工学社, 2000年 [529.021]

『腕時計の誕生：女と戦士たちのサイボーグ・ファッション史（廣済堂ライブラリー）』永瀬唯著. 廣済堂出版, 2001年 [535.2]

『ガラスの文明史』黒川高明著. 春風社, 2009年 [573.5]

『リップ化粧品の科学（B&T ブックス；おもしろサイエンス）』柴田雅史著. 日刊工業新聞社, 2012年 [576.7]

『ベル・エポックの百貨店カタログ：パリ 1900年の身装文化』宮後年男監修. アートダイジェスト, 2007年 [593.36]

『彫刻の歴史：先史時代から現代まで』アントニー・ゴームリー [ほか]著. 東京書籍, 2021年 [712]

『漆の文化：受け継がれる日本の美（角川選書）』室瀬和美著. 角川書店, 2002年 [752]

『レース：歴史とデザイン』アン・クラーツ著, 深井晃子監訳. 平凡社, 1989年 [753]

『近代大阪職人図鑑：ものづくりのものがたり』大阪歴史博物館編著. 青幻舎, 2016年 [750]

『日本のガラス：その見方、楽しみ方』戸澤道夫編. 里文出版, 2001年 [751.5]

『金銀細工師の生活（生活史叢書）』塚原美村著. 雄山閣出版, 1973年 [756.2]

Catherine Arminjon [et al.]. *L'Art de vivre : decorative arts and design in France, 1789-1989*. Vendome Press ; Distributed in the US and Canada by Rizzoli International Publications, 1989. [757]

by Silber and Fleming ; introduction by Dorothy Bosomworth. *The Victorian catalogue of household goods : the complete compendium of over five thousand items to furnish and decorate the Victorian home*. Studio Editions, 1991. [757]

『クロマトピア：色の世界：写真で巡る色彩と顔料の歴史』デヴィッド・コールズ [ほか]著. グラフィック社, 2020年 [757.3]

『和家具』小泉和子著. 小学館, 1996年 [758]

アタック

衝動に駆り立てられて心が、体が動く。

チャレンジには失敗がつきものですが、意識的であれ無意識的であれ、大きな力を生み出します。

PICK UP 『国宝伴大納言絵巻』出光美術館編. 出光美術館, 1994 年 [721.2]

平安後期成立の絵巻を、豊富な図版とテキストで解説。殿上から市井まで、生き生きとした表情で描かれた人物像をはっきりと確認することができます。応天門の変を題材にした《伴大納言絵巻》は、事件から約 300 年を経て描かれたものであることを考慮する必要がありますが、当時の化粧や髪形といったよそおいを確認できる貴重な資料です。なお《伴大納言絵巻》について後年行われた科学的調査では、貴族の顔面に鉛白粉と同じ鉛白が使われていたことがわかっています。

『クリエイティブ・コモンズ：デジタル時代の知的財産権』クリエイティブ・コモンズ・ジャパン編；ローレンス・レッシング[ほか]著。

NTT 出版, 2005 年 [021.2]

『幕末・明治の工芸：世界を魅了した日本の技と美』村田理如著. 淡交社, 2006 年 [069.162]

『それでも僕たちは「濃厚接触」を続ける!：世界の感触を取り戻すために』広瀬浩二郎著. 小き子社, 2020 年 [069.5]

『鹿鳴館：擬西洋化の世界』富田仁著. 白水社, 1984 年 [210.6]

『ショッキング・ピンクを生んだ女：私はいかにして伝説のデザイナーになったか』エルザ・スカパレリ著；長澤均監修；赤塚きょう子訳. ブルース・インターアクションズ, 2008 年 [289.3]

『江戸商人の経営戦略；江戸商人のビジネス戦略（日経ビジネス人文庫）』鈴木浩三著. 日本経済新聞社, 2013 年 [332.105]

『偏見や差別はなぜ起こる?: 心理メカニズムの解明と現象の分析』北村英哉, 唐沢穰編. ちとせプレス, 2018 年 [361.4]

『花婿学校：いい男になるための 10 章』樋口恵子[ほか]編. 三省堂, 1990 年 [367.04]

『日本の女性 100 年の記録：鹿鳴館からミニ・ドレスまで（別冊週刊読売）』読売新聞社, 1970 年 [367.21]

『女性の歴史（講談社文庫）』上下. 高群逸枝著. 講談社, 1972 年 [367.21]

『鹿鳴館貴婦人考（講談社文庫）』近藤富枝著. 講談社, 1983 年 [367.21]

『女性たちの平成不況：デフレで働き方・暮らしはどう変わったか』樋口美雄[ほか]編. 日本経済新聞社, 2004 年 [367.21]

『性差（ジェンダー）の日本史：企画展示』国立歴史民俗博物館編. 国立歴史民俗博物館, 2020 年 [367.21]

『東京の女子教育（都史紀要）』東京都編. 東京都, 1961 年 [372.136]

『リクルートスーツの社会史』田中里尚著. 青土社, 2019 年 [377.95]

『治療は文化である：治療と臨床の民族誌（臨床心理学増刊第 12 号）』森岡正芳編. 金剛出版, 2020 年 [493.72]

『シャネルの生涯とその時代：普及版』エドモンド・シャルル・ルー著, 秦早穂子訳. 鎌倉書房, 1990 年 [589.2]

『トップモデル：きれいな女の汚い商売（文春文庫）』マイケル・グロス著, 吉沢康子訳. 文藝春秋, 1996 年 [593.3]

『大江戸商い白書：数量分析が解き明かす商人の真実（講談社選書メチエ）』山室恭子著. 講談社, 2015 年 [672.1]

『ビューティー・サロンの社会学：ジェンダー・文化・快楽』ポーラ・ブラック著, 鈴木真理子訳. 新曜社, 2008 年 [673.96]